

1 事業総括

平成28年度の千駄ヶ谷荘は、年間入所者数が99人と昨年度の109人と比較して10人の減少となり、年間目標120人を21人下回る事態となった。また、退所者の平均在籍期間は昨年度6.17か月、今年度6.33か月と例年並みであったが、就労自活退所率は前年度より8.3%低下し17.8%となった。しかしながら、退所時の目的達成率は昨年度63.5%から1.9%増加して65.4%となった。その理由として、福祉事務所のニーズにより一層応えるために、対象利用者の受け入れ幅を広げたことによることが挙げられる。

また毎月の月初在籍者数が定員割れを起こしたことにより、施設事務費、施設事業費も共に減少したが、予算執行については計画どおり実施することが出来た。

関係機関への施設サービス周知については、福祉事務所等の関係機関を対象とした施設説明会を年3回実施した。またその内の1回は保護施設通所事業を中心とした内容で実施することにより、福祉事務所のニーズに沿った視点からの施設サービス周知、施設利用促進を行った。

施設利用者の支援においては、若年層を対象として、就労についての気付きを促していくグループワークである駄弁会の定期開催を開始した。また、就労支援をより強化するため、施設内に無料職業紹介所を開設した。これにより、ハローワークとほぼ同等のサービスを提供することが可能となった。その結果、退所時就労率が72.9%と前年度比2.5%の増加となった。

千駄ヶ谷荘は平成29年度も就労特化型更生施設として、多種多様な問題を抱えながらも就労意欲を持っている利用者に対し、関係機関との連携をはじめ、創意工夫を重ねながら施設に求められる社会的責任を果たして行く。

〔利用実績〕

(単位：人)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入者数	99	3	11	11	16	5	9	6	4	8	5	9	12
退所者数	107	10	10	8	9	7	10	10	11	5	11	6	10
月末在籍数	平均 52.0	50	51	54	61	59	58	54	47	50	44	47	49
27年度	平均 61.0	62	62	54	63	61	60	61	65	61	65	61	63

〔退所理由〕

(単位：人)

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居	帰 郷 ・ 親 族	勾 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
28年度	19	48	2	3	10	14	0	0	3	1	3	4	107	
27年度	30	42	5	2	14	14	0	1	3	0	1	3	115	

2 主要目標に対する成果

(1) 新たな就労特化型更生施設として、利用者の状況に合わせた効果的な支援を実施

支援プログラムの一環として、自らの気付きを促すグループワークである「駄弁会」を定期的に開催した。また各福祉事務所を直接訪問して状況確認を行い、求められているニーズに応えるよう臨機応変に対応した。また、経済的自立が難しくても、利用者自身に就労意欲があれば積極的に入所を受け入れ、対象利用者の幅を広げていることを関係機関にも周知した。

(2) 就労に重点を置き、関係機関と連携し、就労の確保・定着に向けた支援を実施

効果的、効率的な就労支援を実施するため、無料職業紹介所を開設した。今後は協力企業の開拓、関係機関との連携を強化していく。

(3) 利用者や実施機関等のニーズに応じた、弾力的な施設運営の展開

施設PRを目的とした施設説明会を年3回開催した。また地域で生活保護を受けながらアパート生活をされている方に向けた、通所事業の直接利用を積極的にアピールすることで、実施機関のニーズにより一層応じる支援も可能であることを説明した。

3 運営管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・就労特化型更生施設の機能を活かし、就労支援の幅を広げ、新たな利用者層の開拓に努めた。また、新たな利用者層に向けた自立支援プログラムの改定を、主任を中心とした所内 PT で検討してきたが、最終的なプログラム構築には至らなかったため、引き続き検討する。 ・前年度から実験的に開始した、社会参加のきっかけ作りを促していく若年者向けグループワーク「駄弁会」を今年度は3回開催し、就労意欲の喚起及び地域生活への不安の解消に努めた。 ・利用者の求職活動・就労継続支援を効果的に実施するため、施設内に無料職業紹介所を開設した。今後は本格的に関係機関との連携、協力企業の開拓に取り組んでいく。 ・給食委託業者の協力により、欠食申請後の復活食や、季節のバリエーションに富んだ食事を提供することが出来た結果、食事アンケートでは満足度 79%という高い評価を得ることができた。 ・会議、行事などについては、事業計画どおりの内容・回数を実施することが出来た。 ・非常災害時における事業継続計画（BCP）に水害対策を盛り込むことで、豪雨水害対策を充実させることができた。 ・施設共有部分の清掃当番の内容について、以前より施設入所者より苦情が多かった喫煙所の清掃を業者に委託することにより解決を図った。 	
4 保健衛生・環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、支援職員の両方にインフルエンザの予防接種を行うことにより、感染予防及び拡大防止に努めた。 ・定期的な入浴、シーツ交換、布団乾燥に加え、利用者入所時に荷物の消毒を実施する等、施設の衛生管理に努めた。 ・健康的な生活の意識化を目指すため、保健栄養教室を実施した（年3回）。 	
5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）	
<ul style="list-style-type: none"> ・OB 交流事業はボウリング大会、もちつき大会をそれぞれ開催した。もちつき大会は前年度に引き続き、地域の商店街の協力の下、もちつき道具の貸し出し、ボランティア参加などしていただくことで、地域との交流を深めることができた。 ・地域で生活する元利用者に対して、居場所の提供、給食提供、金銭管理、就労支援等の支援（OB 支援事業）を実施することで、退所した利用者の社会的な孤立を防いだ。 ・前年度に引き続き、社会福祉系大学や専門学校から実習生を計6人受け入れた。 ・福祉関係団体やアルコール自助グループ等へ、定期的に会議室を会場として提供した。 	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構	実施期間：H28. 7. 1～H28. 11. 18
全体の講評： 特に良いと思う点 ① 就労特化型更生施設として、きめ細やかな就労支援や、施設生活において柔軟な対応をし、効果を上げている ② 季節感ある食事の提供など、さまざまな取り組みにより食事の満足度が高い ③ 退所者に対して、健康相談・就労支援・個別訪問や OB 会などを実施し、就労が継続出来るよう支援している さらなる改善が望まれる点 ① アセスメントシートを作成、活用し、業務の標準化を図ることを期待する ② 利用者にとって快適な生活環境づくりにより一層の取り組みを期待したい ③ 第三者委員のさらなる活用を期待したい。	施設コメント： 当年度の主要目標として掲げた「就労特化型更生施設としての就労支援や、生活において柔軟な対応」が評価機関から高く評価された。 さらなる改善が望まれる点②については、利用者アンケートで指摘されていた浴室関係の意見に対して、浴室定期清掃、浴室マットの交換を実施することにより改善を図った。